

研究員 の眼

「夫は仕事、妻は家庭」エリア支持率 47 都道府県価値観ランキング②

－未婚社会データ検証「ふたりの居場所はどこにある？」

生活研究部 研究員 天野 馨南子
(03)3512-1878 amano@nli-research.co.jp

【はじめに】

[前回](#)の繰り返しになるが、個人の恋愛・結婚行動において希望が叶わないケースにおける大きな原因のひとつは、

「目的と行動が一致していない」である。これは結婚後のすまいとして選択する居住地についても言えるだろう。

例えば、自然が大好きで海を愛しているという男性が、海に全く接していないエリアに住むことは、居住地選択行動から考えるならば、より癒される選択、とは言えないだろう。

前回の「[夫は仕事、妻は家庭](#)」が理想の男性比率 [47 都道府県価値観ランキング①](#)－未婚社会データ検証「[理想の彼はどこにいる？](#)」、と同様に本稿でも、結婚を希望する男女が「目的にあった行動をしないから出逢えない壁」をクリアしやすくなる情報の一つとなりうるものを提供してみたい。

【専業主婦生活を狙うなら西日本へ？】

結婚した後、「女性が家庭に入りたいかどうか」に関しては、パートナーとなる相手の希望だけでなく、その居住地のもつ社会的価値観も検討する余地があるだろう。

いくら相手の男性が「働いてほしい」と妻になる人になっていたとしても、2人が暮らす住環境では「専業主婦が理想」という価値観が一般的であれば、働く妻へのエリアの評価は「あまり理想的な妻ではないかな」とうことになりがちであり、少なくとも妻の方はかなり暮らしにくく感じるだろう。

その一方で、専業主婦願望の強い女性であれば、女性が家庭に入るべきであるとする価値観が強いエリアで居住すれば「彼女の家庭は理想的」と評価されやすく、比較的ストレスフリーとなる可能性が高いともいえる。

そこで47都道府県について、前回用いた内閣府の大規模調査結果を利用して、「自分だけでなく一般的にも夫は仕事、妻は家庭であるべき」かどうか、という「社会的価値観」を問う設問に対して「そう思う」「ややそう思う」と肯定的に回答した男女合計の割合が多いエリア順にランキングを作成した(図表1)。

【図表1】自分だけでなく一般的にも「夫が外で働き、妻が家を守る」べきだ：そう思う男女計比率(多い順)

順位	都道府県名	自分の家庭に限らず一般的にもそう思う男女%	国土交通省航空局管轄 東京航空局-東日本 大阪航空局-西日本
1位	福岡県	37.4	西日本
2位	山口県	36.8	西日本
3位	宮城県	36.4	東日本
4位	奈良県	36.2	西日本
5位	長崎県	35.0	西日本
6位	愛媛県	34.8	西日本
7位	広島県	34.4	西日本
8位	山梨県	33.8	東日本
9位	三重県	33.6	西日本
9位	兵庫県	33.6	西日本
11位	石川県	33.2	西日本
12位	栃木県	33.0	東日本
12位	神奈川県	33.0	東日本
12位	大分県	33.0	西日本
15位	滋賀県	32.6	西日本
15位	和歌山県	32.6	西日本
15位	佐賀県	32.6	西日本
18位	新潟県	32.4	東日本
18位	岐阜県	32.4	西日本
20位	茨城県	32.2	東日本
20位	熊本県	32.2	西日本
22位	北海道	32.0	
22位	東京都	32.0	
22位	大阪府	32.0	
25位	香川県	31.8	
	全国	31.7	
26位	群馬県	31.6	
27位	京都府	31.4	
28位	埼玉県	31.2	
28位	徳島県	31.2	
28位	宮崎県	31.2	
31位	静岡県	31.0	
32位	岡山県	30.8	
33位	千葉県	30.6	
34位	鹿児島県	30.4	
35位	高知県	29.8	
35位	愛知県	29.8	
37位	鳥取県	29.6	
38位	富山県	29.4	
39位	秋田県	28.6	
40位	福島県	28.4	
40位	福井県	28.4	
42位	島根県	28.2	
43位	沖縄県	28.0	
44位	山形県	27.4	
45位	青森県	27.2	
45位	岩手県	27.2	
45位	長野県	27.2	

四捨五入して 4 割の男女が「夫は仕事、妻は家庭であるべき」と考えている「女性が家庭に入ることが理想（男性が 1 馬力で頑張る家庭が理想）」エリアは福岡県、山口県、宮城県、奈良県、長崎県が 5 強ということになる。

データからわかるのは、上位 5 エリアのうち 4 エリアが西日本に集中している。この西日本優勢はこれを上位 10 エリアに拡大してみても、うち 8 エリアが西日本、と状況はかわらない。

特に九州は「妻は家庭」エリア支持の 5 強に 2 県がランクインしている。全国平均以上の値の上位 20 位までみても、九州 7 県のうち宮崎県と鹿児島県を除く 5 県がランクインしているため、九州は特に「妻は家庭」エリア支持率が高いエリアとなっているといえるだろう。

データからは専業主婦希望の女性、専業主婦と家庭を持ちたい男性は西日本、特に九州がオススメといえるのかもしれない。

ちなみに図表データを下位から見ると、例えば 43 位の沖縄県は「妻は家庭」支持が 3 割をきっており、「一家の経済的大黒柱でありたい」男性が選ぶにはあまりおすすめできなさそうなエリア、とみることができる。

【夫は仕事、妻は家庭であるべき男女データからわかること：ストレスフリーな結婚生活には居住地選びも視野に】

図表からは居住エリアによっても 2 人の新生活のストレスが異なってくるのがうかがわれる。

自分 1 人の価値観を変えるだけでも大変だが、周囲の環境に漂う「機運」まで変えるとなるとこれは確率的にもっと難しくなってくる。環境をおりなす変数が多数存在しているからである。

ただし、図表からは「夫は仕事、妻は家庭」と思わない人が全エリアで割合的には優勢であることも読み取れる。

これがあるエリアでは 6 割、あるエリアでは 3 割、であるならば相当慎重に居住地を考えねばならないだろう。「この程度の差だから気にしない」か「自分の育ったところより専業主婦、あるいは、働く妻への理解がなさそうだから転居はやめておく」かは、個人（カップルそれぞれ）の選択である。

「一生に一度のことだから、慎重に決めたい」と思いつつ、「正確な情報を持たずに覚悟なく」行動をしてしまっていないか、「行動の根拠となり得るデータをもとに」考える。

人生において大切な目標を「ただの夢」に終わらせず、「こんなはずではなかった」をより減らしつつ好きな人と目標を達成していくために、とても大切なことである。

次号も「夫は仕事、妻は家庭」価値観に関するデータをご紹介します予定です。

ⁱ 沖縄県の合計特殊出生率は、2016年2.0で全国トップである。